

学年通信 第3号



5月

ざわざわと枝を揺らして、さわやかな風が吹き抜けていきます。いつの間にか、一枚一枚の葉が大きく広がり、重量感を増した木々が、力強く空に向かって枝を伸ばしています。季節は知らぬ間に夏へ向かっているようです。

ようやく学校も再開されることになりました。再開後の行事予定については、詳細がわかり次第お知らせする予定です。不明なことばかりでお困りになると思いますが、ご理解ください。

さて、今回の学年通信では、中学生になったみなさんの書いた作文を紹介します。



入学式の朝、慣れない制服を着て、落ち着かない気持ちのまま家を出ました。入学式が終わり、教科書やプリントをもらい、先生の話をしている時もまだドキドキしていましたが、だんだんと中学生なんだなという気持ちがわいてきました。

ぼくは心がけたいことが、二つあります。一つ目は、自分で気づいて動けるようになることです。ぼくは、めんどくさいことは、後回しにするくせがあります。休校になった三月中はダラダラ過ごしていたので、教科書の多さにあわてました。よく分からないことがたくさんありましたが、兄の使っていた用語集で調べてみるとなんとなく理解できて、おもしろくなってきました。やらない、分からない、やめる、ではなく、やってみる、分かる、続ける、になるように、勉強も部活もがんばっていきたいです。

二つ目は、感謝の気持ちを忘れないことです。小学校では、学校に行かされているという気持ちでした。しかし、テレビは毎日たくさんの方が感染し亡くなっていると伝えていました。ぼくは新しい制服やかばんを買ってもらい、とても恵まれていると思います。学校に行けることは当たり前ではなく、感謝しないとイケないと気づきました。
(1組)

私は滝ノ水中学校で出会った友達を大切にしていきたいと思います。小学校では友達にいろいろ助けてもらったからです。たまに、ケンカする時もあったけど、私にとってやっぱり友達は大切だと思いました。

人間は、一人で生きていけるとは思いません。仲間が必要です。私は勉強など助けられることがたくさんありますが、私が出来るときは、なるべくたくさんの仲間を助けてあげられれば良いなと思います。

友達とのコミュニケーションも大切に出来ればと思います。朝の元気なあいさつ、帰りの元気なあいさつ。会話はなくても問題はありません。

最後に中学校三年間で、困ったり悩んでいる友達に、すぐ声が掛けられる人になれるようがんばります。
(2組)



私はこれからの中学校生活で思いやりを持って行動できるようになりたいです。けれど、思いやりや優しさがある行動は意識してするべきでないと思います。だからとっさに思いやりをもった行動ができるようになりたいです。

私がこう思ったきっかけがあります。小学五年の赤い羽根募金の時、十円を握って学校へ行き募金箱に入れると「十円だけか・・・。」と言われました。少し悲しくなりそのまま通り過ぎようとする、先生が「十円でも集まればいろいろなことができるんだよ。」と言って「募金ありがとう。」と笑顔で言ってくださいました。私は心が温かくなり、とてもうれしい気持ちになりました。

した。募金は誰かの役に立っているんだと改めて思いました。大切なのは自分がどれだけ誰かを思っていたかだと思います。思いやりを伝えるために行動することだと思います。

きっかけをつくってくださった先生にとっても感謝しているし、尊敬しています。「困っていたらすぐ行動したか。」「誰かを思って行動しているか。」という二つを目標に楽しく明るく三年間を過ごしたいと思います。(3組)



私は、人生にゴールはたくさんあると思う。一人一人ゴールは違うけど、私の中の一つのゴールは、大人になることだ。それに向かって進むために中学校はとても大事だと思う。なので様々な経験をしたい。

私がそう思う理由は、将来必ず役に立つからだ。経験で役に立たないものはないと思う。失敗は成功の糧になるし、成功したら感覚が残る。その糧や感覚が必ず将来役立つだろう。通常、社会人になるには、小学校や中学校、高校、大学に通うだろう。しかし、思った。なぜ学校に通うのだろうか。勉強や運動さえすればいいのか。いや違うだろう。学校は、人との関わり方を経験する場所でもある。たとえば、友達作り。どう話しかけ、どう仲良くしていくか考えることも経験だ。意見を出し合い、自分以外の考え方を知り、世の中には自分と全く違う考えを持つ人もいることを学ぶ。つまり学校は、経験を積み重ねる場でもある。

中学での目標は、経験を積み重ねるというシンプルなものにした。そしてもう一つ、中学生生活を楽しむこと。人は、高校生になると中学は良かった、社会人になると学生生活は良かった、と言う。私はそれは幸せなことだと思う。だから、楽しい中学生生活を送っていきたい。(4組)

中学生になって頑張りたいことの一つ目は、勉強です。中学は各科目の先生が教えてくださるので、詳しいところまでわかるので、苦手な科目も克服できたらいいと思います。また予習、復習が大変なので、時間を見つけてできればいいと思いました。授業では積極的に意見を言ったり、しっかり聞けるようにしたいと思いました。

二つ目は部活です。たくさん努力していい思い出をつくりたいです。先輩方のプレーや動きをよく見て、先輩方に追いつけるようにしたいです。

三つ目は、友達をいっぱい作ることです。最初はあいさつから入り、違う小学校の人達とも、だんだんしゃべって友達を増やしたいです。例えば悩んでいる友達の悩みを聞いたり出来るようになりたいです。小学校ではうまくできなかったのが、中学では多くの友達を作りたいです。

そして、いいクラスを作ろうと思います。ぼくが思ういいクラスとは、思いやりのあるクラスです。相手のことを思いやり行動すれば、クラスの雰囲気は良くなり、授業が楽しくなります。悪口を言ったり、地味な嫌がらせをしなければ、誰もが楽しく中学校に来れると思います。

修了式の日には、このクラスで良かったなと思えるようにしたいです。(5組)

コロナウイルスによる休校。これにより私は、一つ大切なことに気づかされた。

三月半ばごろ、まだ卒業まで何日もあるという気持ちで学校に行っていた。ところが「今日が学校最後の日です。」と聞き、今日がとても貴重だと感じた。でも、よく考えると、昨日だって一昨日だって、一ヶ月前だって、十二才のその日は一日しかないことに気がついた。「あんなことやらなければ・・・。」とたくさん後悔した。だけど、悲しくてたまらない一日や後悔するような日でも、人生に一度しかなく成長できた大切な一日だと思う。

入学前の長い休みの間、私は毎日日記を書くことにした。記憶に残らないような、何気ない一日を記録しておきたかったから。読み返すと「こんなことあったっけ」「これおもしろかったよね」など、ちょっとした出来事を振り返るのが楽しい。「明日はどんなことがあるか楽しみだな。」と、前向きな気持ちにもなれた。日記を書くことで毎日を大切にできたのかもしれない。休校を通して人生に一度しかない今日を、大切にしようと思えた。卓球でも「まだたくさん練習時間があるから」と気をぬかずに常に全力で練習しようと思う。中学生になり勉強が難しくなり忙しくなるが、すばやく行動して時間を大切にしようと思った。(6組)





僕は、中学で三つの目標をやりとげること決めました。

一つ目は、新たな友をたくさん作ることです。中学のクラスは、ほぼ知らない人ばかりなので気持ちを切り替えて、友達を一から作っていきたいというのが目標の一つ目です。

二つ目が、人にやさしくし、笑顔で毎日をです。決して、小学校の時、人に冷たい態度をとり、怖い顔で毎日、ではなかったのですが、中学ではそのやさしさや笑顔を、三倍上回るように心がけて過ごすのが二つ目の目標です。

三つ目の目標は忘れ物をなくすことです。今まで忘れ物はなかったとは残念ながら言えないので、中学では「忘れ物はないぜ」と堂々といえるようにするのが三つ目の目標です。これらを毎日心がけながら守り、楽しく一年間過ごそうと思います。(7組)

私は、中学校生活で、一日一日を大切に、一日一日を楽しみたいと思っています。

コロナウイルスで小学校が急に休みになってしまったとき、「あたりまえ」の大切さが分かりました。あたりまえに学校に通えていることや、あたりまえに不自由のない生活をしていること。

「あたりまえ」にいろいろなことができていることを、「ふつう」に思わず、ありがたみを持って、一日一日を大切にしながら、中学校生活をおくりたいです。そして、小学校の半分の、三年間という短い時間で思い出をたくさん作り、いろいろなことをたくさん学んで、笑顔いっぱい、楽しい三年間にできるようにします。(8組)



